

## 第28回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

設計部門(小規模)

受賞作品 赤羽スポーツの森公園(自衛隊跡地)計画設計  
公 園 赤羽スポーツの森公園  
所在地 東京都北区  
受賞団体 株式会社都市計画研究所

北区が陸上自衛隊駐屯地赤羽地区の跡地に整備した「赤羽スポーツの森公園」の計画設計である。

「赤羽スポーツの森公園」は健康づくり機能、スポーツ・レクリエーション機能及び防災機能を導入し、多目的な「競技場」と芝生の「くさっぱら広場」を主要施設として計画設計された。隣接樹林を背景として公園景観に取り込んだ風景づくりや公園のほぼ中央に位置する既存のスタジアムの大木を景観木として活かし、「くさっぱら広場」に植栽と地形によるボリューム感と変化に富んだシークエンスを確保した。さらに「競技場」と「くさっぱら広場」が一体的となる連続性の高い空間づくりを行った。大都市の市街地の公園として「スポーツ」と「森」のバランスをデザインとしてまとめられていることが高く評価された。



フィールドと芝生のマウンドと隣接する樹林景観の緑



くさっぱら広場内からの景



スタジアムの既存木(シンボル樹)



西口側広場からの景

## 第28回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

造園施工部門(大規模)

受賞作品 横浜公園再整備工事  
公 園 横浜公園  
所在地 神奈川県横浜市  
受賞団体 横浜市、横浜庭苑株式会社、藤・田澤JV、藤造園建設株式会社、堀江造園株式会社

平成20年度～23年度の4カ年計画で行われた横浜公園の第5次再整備工事である。

明治9年(1876年)に開園した横浜公園はこれまで4回の改修工事が行われており、今回の第5次再整備工事は『歴史と利便性の融合～横浜公園再整備の試み～』をテーマに、バリアフリー化、利便性・安全性の向上、緑被率のアップを目的としたものである。

歴史ある施設、既存の樹木等を活かしながら都市部の公園としてより魅力的なものになるよう、外周壁のタイルの色合わせや再利用の石材の丁寧な取外しなど様々な配慮や工夫がなされた。また、公園を開放しながらの施工となるため、利用者の安全確保や工事の期間を短くするための工事の効率化が図られた。

きめ細やかな施工と仕上がりの美しさとともに、利用者の多い場所での施工の安全管理等が高く評価された。



再整備前の噴水

[噴水]歴史を活かした再整備



再整備後の噴水



改修前

[外周壁]既存のスクラッチタイルに色を合わせて施工



改修後(大谷笠石、スクラッチタイル)



整備前

[芝生広場]再利用の新大谷石を芝目地に使用し芝生地のアクセントとし、手作業でカットしたゴム保護マットを敷設した。



整備後

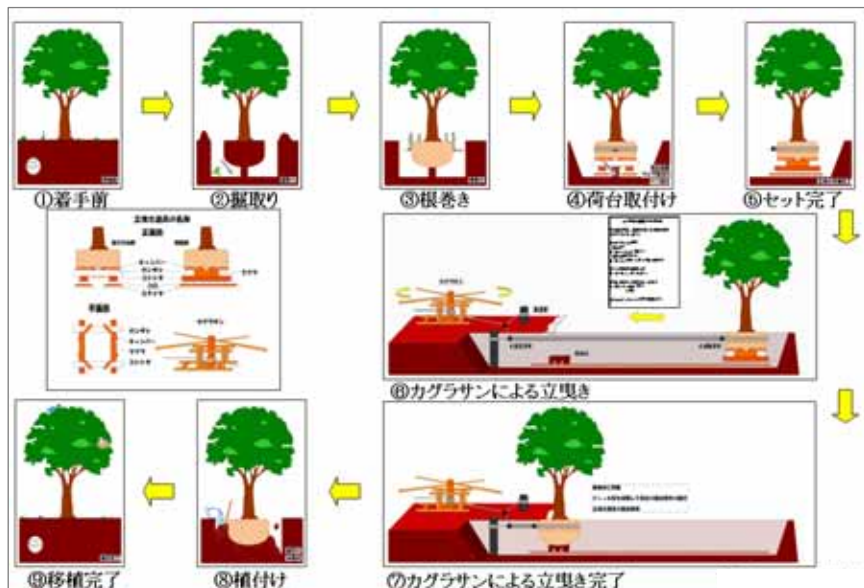
## 第28回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

材料・工法・施設部門(材料・工法)

受賞作品 白川河川改修に導入の大クス立曳き工法  
 公園 白川左岸緑地公園  
 所在地 熊本県熊本市  
 受賞団体 伊勢造園建設株式会社  
 株式会社富士植木

重さが70tと100tの2本のクスノキの移植は神楽棧(かぐらさん)を用いた立曳き工法で行われた。立曳き工法は、江戸時代から伝わる伝統技術であり、現代工法では移植困難な大クスノキをより安全に且つ樹勢を損なうことなく移植が可能な工法である。

白川河川改修工事では、熊本市民に親しまれている明午橋から大甲橋の800mをみどりの区間と位置づけ「森の都熊本」にふさわしい環境整備が行われた。この工事では、環境整備において伝統工法による施工も重要だと考え、産・官・学の有識者で構成する検討委員会を立ち上げ、伝統技術の継承を行うとともに、立曳きを市民参加型で実施し、報道関係20社余、市民参加者300名余、近隣小学校の校長先生をはじめ、児童60名も授業の一環として参加したことで、みどりの大切さと造園技術を広く社会に認知されたことが高く評価された。



フロー図



立曳き前



立曳き後



児童によるカグラサン巻取り